

K A W A K A M I D A M 2007
川上ダム通信 6月号

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

川がきれいになることを願って ～名張クリーン大作戦に参加～

環境月間中である6月3日(日)に、道路や公園、河川敷などにポイ捨てされたゴミを拾う取り組み、「名張クリーン大作戦2007」(同実行委員会)が名張市内の17カ所で実施されました。この取り組みは今回で4回目であり、参加人数も年々増え、今年は32団体から約1600名の方々が清掃活動を行いました。川上ダム建設所からも職員とその家族20名が名張川新町橋周辺での河川



清掃活動の様子



炭の設置の様子

清掃に参加し、約2時間にわたって川がきれいになることを

願い、ペットボトルやプラスチック容器等のゴミを集めました。その後、水質浄化のため、当機構が管理する青蓮寺ダムの流木を利用した炭を生活排水の流入口に敷き詰めました。年々ゴミの量は減ってきていると伺いましたが、集まったゴミの多さに驚きを感じ、一人一人が川を大切に

【第二用地課 中間健一】

夏の夜を彩るホタルたち

6月9日(土)、川上ダムの周辺の上流地域である博要地区市民センター(旧・博要小学校)にて地元、博要地区「ほたる祭実行委員会」及び「食の博覧会実行委員会」の主催により、食の博覧会及びほたる祭が催され、予想を上回る約400名の来場者がありました。食の博覧会では、昔懐かしい郷土料理の展示が参加者の興味をひき、自宅でも作ってみたいと多くの方がレシピを持ち帰っていました。また、巻き寿司作りや餅つきも行われました。ほたる祭りは、木津川の源流として下流にも美しい水を引き継いでい



食の博覧会の様子

こう、そして、その証としてほたるが自然とたくさん飛ぶようにしようという取り組みで、平成5年から行われています。日が落ち周りを夕闇が包むころ、待ちに待ったほたるが飛ぶ姿は、実に幻想的でした。

【第二用地課長 芦田哲郎】

広がれ「花いかだ」の想い



作成した花いかだ

6月10日（日）、名張市街地を流れる梁瀬水路（城下川）にハナショウブを満載した「花いかだ」が浮かべられました。この取り組みは「川の会・名張」が毎年行っているもので、川上ダム建設所からも所長以下数名が参加しました。

「花いかだ」を浮かべる取り組みは、水路の流れに優雅なハナショウブの姿を漂わせることにより、対岸のアジサイとともに道行く市民みなさんの視線を誘うことになり、川への環境美化の関心を高めてもらおうとするものです。

約2週間の短い設置期間ですが、このために1年間、ハナショウブの育苗などにいそしまれた同会の方々の苦勞に敬意を表したいと思います。
【副所長 青山太洋】

— 用地功勞者表彰を受賞 —



表彰式の様子

平成19年6月11日（月）、近畿地区用地対策連絡協議会の用地功勞者表彰式が開催され、国土交通省近畿地方整備局長から川上ダム建設所第一用地課の河田課長が功勞者として表彰を受けました。今回の受賞は、用地補償業務に長年にわたり携わり、多大な貢献があったことによるものです。

近年、用地補償業務も多様化する中、その困難さも増してきていますが、川上ダム建設所では今後とも、用地補償業務のみならず、全ての業務において適正、的確な業務執行に努め、国民、ユーザーにしっかりと説明できる仕事をしてまいります。

【第一用地課 鈴木繁】

ダム建設に向けて情報の収集に努める

6月6日（水）～7日（木）に川上ダム建設所の職員が、志津見（しづみ）ダム及び尾原（おぼら）ダム（国交省中国地方整備局が島根県内に建設中）の建設現場等を視察しました。

両ダムとも建設工事の最盛期を迎えているダムで、ダム本体の大きさや周辺地形状況などが川上ダムと似ていることから、今後の川上ダム建設に向けて参考となる技術情報やコスト縮減策について情報収集を行いました。

今後も広く最新情報を入手し、より安全で効率の良いダム建設を目指してまいります。

【総務課 武村剛泰】



熱心に質問する川上ダム建設所職員

川上ダム事業進捗状況の紹介 付替県道松青線第5工区（その7）工事

本工事は、道路施工延長が約 170m、幅員は 8mであり、平成 19 年 2 月から平成 20 年 2 月までの約 1 年間の工期で行っています。

当該工区は尾根部分が 3 箇所と急傾斜の谷部分が 2 箇所と複雑な地形が続く区間です。老川側から施工を進め、現在は主に 1 箇所目の谷部分の施工を行っています。今後とも引き続き、安全に十分注意しながら、完成を目指していきます。

【工事課 望月登】



工事実施状況（H19.6.22 撮影）

新技術の紹介

建設機械遠隔操作システム

今回は建設機械遠隔操作システムについて紹介します。

従来の災害復旧工事などでは、二次災害の発生のおそれが無くなってから重機に運転手が搭乗し、施工を行っていました。この技術では複数の建設機械をモニターを見ながら無線遠隔操作を行い、無人化施工とすることで、二次災害のおそれがある危険な場所での作業が可能となり安全性が向上します。また、通常、遠隔操作可能距離は 300m 程度ですが、無線中継車を設置することで 2km 程度の超遠隔無人化施工が可能となります。

【国土交通省ホームページ：新技術情報提供システム（NETIS）より参照】



無線操作式の大型ブルドーザーです。



無線操作式の大型バックホウです。



無線操作式の大型タンブトラックです。



無線操作式のブルドーザーです。



無線中継車



無線操作式の振動ローラです。



無線操作式のバックホウです。



操作室



移動カメラ車

システム概要図

農業研修に参加して

6 月 11 日（月）～22 日（金）の 2 週間、川上ダム建設所環境課に配属された磯野正典が当機構の管理する三重用水管内の三重県三重郡菰野町で農家滞在農業研修に参加しました。この研修は、農家にホームステイして農作業の体験を通じ、水利用や農業経営の実情を学び、ユーザーである農家の視点を理解することを目的とするものです。

私は米、麦、大豆農家の黒田さんにお世話になり、麦の刈り取り、運搬、出荷の補助や草刈り等を行いました。短い間でしたが、自然の恵みを得ることの大変さと素晴らしさに触れることができました。今回の経験を活かして水利用者の皆様により良いサービスを行えるよう努力していきたいです。またお世話になりました黒田さんのご家族には、この紙面を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

【環境課 磯野正典】



麦の袋づめ作業の様子

ちよつとオオサンショウウオ!

成育のはなし(その1)

この連載の第4回(2006年10月号)で、川上ダム建設所のオオサンショウウオ保護池での4回目の産卵を2年ぶりに確認したことについてお知らせしましたが、記念すべき第1回目の産卵は平成14年でした。平成14年生まれのオオサンショウウオたちは、現在、13個体が健在で、今年で5歳になります。

オオサンショウウオは、孵化直後の幼生は3cmほどですが、3~5年で幼生から成体へと変態し、そのときの体長は20cm程度になります。(写真は、平成14年生まれのオオサンショウウオのうち一番大きい個体で、体長は43cm、体重は約500gです。)

【環境課長 大村朋広】



オオサンショウウオ保護池での平成14年生まれのオオサンショウウオ (H19.5.29撮影)

連載企画

~予告~

ちかた
藤原千方伝説地探訪(予告)

千方窟周辺史跡への入口に建つ鳥居

このコーナーでは、先月号まで掲載してきました「阿保千方湖物語」の主人公である藤原千方(ちかた)の伝説が伝わる史跡を紹介していきます。

平安時代、青山には伊賀忍者発祥だと言われ、超応力をもつという金鬼、風鬼、水鬼、隠形(おんぎょう)鬼の四つの鬼を部下に従えた豪族・藤原千方がいたと伝えられています。

大きな勢力を持ち、朝廷軍と激しい戦いをした千方ですが、朝廷軍に敗れてしまいます。しかし、その伝説は今も青山の地に語り継がれています。

来月号から数回にわたり、千方が朝廷軍と対立して立て籠もった伝承地である「千方窟(ちかたくつ)」周辺の史跡を訪ねます。

EVENT

ハーモニー・フォレスト~Artist in Residence at IGA 2007~

平面・立体の造形作家4人が伊賀市青山地域でホームステイしながら制作活動を公開します。その他に、造形教室や造形作品展覧会なども行います。

○期間/7月22日(日)~9月1日(土)

○場所/青山ハーモニー・フォレスト(伊賀市種生)

第27回 伊賀焼陶器まつり

1250年の伝統を誇る伊賀焼の陶器市。伊賀地域で活動している陶芸家の個性豊かな作品が通常より割安で展示販売します。

○日時/7月27日(金)~7月29日(日)9時~18時(29日は16時まで)

○場所/あやまふれあい公園内「すぱーく阿山」(伊賀市川合字焼尾)

編集後記

環境月間の今月は環境に関する記事を中心に掲載しました。今後も川上ダム建設所では河川美化に励んでまいります。

[広報誌発行事務局]

編集長 酒井 進 (川上ダム建設所長)
デスク 上村 信幸 (総務課長)
" 北牧 正之 (工務課長)
通信記者 武村 剛泰 (総務課)
" 立石 浩行 (調査設計課)
" 磯野 正典 (環境課)



ISO14001:2004
JQA-EM5769

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆
◇川上ダム建設所はISO14001を取得し、環境保全を推進しています。この広報紙は古紙配合率100%再生紙を使用しています。◇